

バッテリーに関してのご注意

バッテリーとUPS本体の接続について

いつも弊社UPS製品をご愛用いただきましてありがとうございます。

このたび弊社では輸送安全上の理由から、すべてのUPS製品につきましてUPS本体とバッテリーの接続を切り離して出荷させていただくこととしました。

つきましては、大変お手数ではございますが、UPSを開梱した後にバッテリーケーブルを接続してからご使用くださいますようお願い申し上げます。

具体的なバッテリーケーブルの接続方法は、[こちら](#)にて注意書きをご案内しておりますのでご参照ください。

バッテリーの取り扱い、交換に関して

- バッテリーは消耗品です。
弊社UPSはバッテリーを利用しています。バッテリーは消耗品です。弊社UPSにはバッテリーの劣化を知らせるバッテリーアラームが実装されていますが、寿命を超えた状態で使用された場合、思わぬ障害を発生させる原因となります。バッテリーは標準で3年の部品保証を提供しておりますが、実際の使用温度の状況によりバッテリーの取替え時期に差異があるため、以下の『使用温度条件』の表を確認の上、アラームの有無に関わらず定期のバッテリー交換をお勧めします。(アラームが無い場合は有料になります。)
なお、電池工業会では小型制御弁(シール)鉛蓄電池の取り扱いの指針(電池工業会指針:SBA G0202)に基づき、ユーザーに対して下記のとおり取替え時期を定義しています。

使用温度条件	取替え時期の目安
5~25℃	2.5年
30℃	1.7年
35℃	1.2年

※ 取替え時期の目安は、電池工業会が示している指針です。

- バッテリー寿命を大幅に過ぎて利用すると、バッテリー機能を発揮できなくなるだけでなく、バッテリーの内部短絡や電槽の破損等が発生し、下記の危険性があります。
 - 容器の劣化により液漏れすることがあります。
 - 漏れ液には希硫酸が含まれているため、発煙、火災の恐れがあります。
 - 漏れ液が皮膚に付着、目に入った場合、火傷や失明する恐れもあります。
 - 床の腐食、異臭の発生、火災報知器等が作動する場合があります。

こういった危険性を無くすために、バッテリーの定期交換をお勧めします。なお、この作業は有料になります。

一部のUPS製品に関しては、バッテリーを製品の一部として扱うため、4年日以降(保守契約のあり・なしにかかわらず)バッテリーが消耗・故障した場合、製品本体交換分の部品代が必要となります。詳細は『[UPSの保証・保守に関して](#)』までご参照ください。

バッテリー劣化に関する事前警告機能について

HPE UPSは、UPS内部の拡張バッテリー・マネージャー(EBM)による、バッテリー劣化検知機能を備えております。拡張バッテリー・マネージャーは、充電時や待機時、放電時のバッテリー端子電圧変動を常に監視しており、速やかにバッテリーの劣化を検知することが可能です。

EBMは満充電のまま無負荷でバッテリーを放置した状態で端子電圧の低下を監視する手法を実施しており、バッテリーの容量が徐々に低下してくるような劣化を検知することが可能です。多くの場合にバッテリーは容量低下する1~3カ月前に劣化の兆候があり、それを捉えようとする一つの方式になります。

ただし、EBMで検知できないバッテリー劣化も稀にあります。(下記2点は代表例になります)

- 極板の有効面積が徐々に減少し、無負荷時のバッテリー端子電圧に変化が現れないような劣化現象は検知できません。(代表的な名称:サルフェーション劣化)
- バッテリーの急激な温度上昇により内部電極や樹脂ケースが変形することによる劣化現象は検知できません。(代表的な名称:バッテリーの熱逸走(サーマルヒートラン))

このような検知できないバッテリー劣化を無くすためにも、事前警告機能からアラートが上がっていないに関わらず、バッテリーの定期交換を推奨いたします。(事前警告機能からアラートがない場合は交換費用(バッテリー本体、作業費とも)は有料になります。